

本調査は、3年生を対象に4月に行われた文部科学省による「全国学力・学習状況調査」の結果となります。これは、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、指導上の課題を明らかにするとともに、学校における指導方法の工夫や改善に役立てることを目的として実施されるものです。

本校では、調査結果を分析し、生徒の学力向上に資する取組について検討しましたので、その概要を以下にお知らせします。

1 本校の調査結果

教科(問題数)	国語(15題)	数学(16題)	英語(7題)
京都府との比較	同程度	同程度	同程度
全国との比較	同程度	同程度	同程度

平均正答数比較の基準

平均正答数 比較の基準	-2	-1	0	+1	+2
	低い	やや低い	同程度	やや高い	高い

以上の結果から、本校3年生の学力程度は、すべての教科において全国、京都府と同程度であった。
※なお、結果公表のために集約された数値について集約の際に誤りがありましたので、正しくは上記の結果が正しく集約した結果となります。

(1) 国語の結果について

「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」などの知識・技能の項目について、比較的良好な結果が見られました。一方で、条件に従って自分の意見を書いたり、場面の分析をしてまとめたりするなど、特に「書く」問題に弱さが見られました。また、「読む」ことに関して、本文の内容に沿ったものを選択する問題に弱さが見られました。

国語科の授業で取り組むこと

- ・条件作文の練習を、単元のまとめ課題として実施していきます。
- ・物語文や詩の感想文を書くことで、自分の意見を書く練習を行います。
- ・本文の内容を正確に捉えるために、短文読解の練習を取り入れます。

(2) 数学の結果について

「数と式」「図形」「関数」では、比較的良好な結果が見られました。特に、三角形の合同を示す記述問題では、正答率が高く、授業で繰り返し扱ったことで、定着した生徒が多かったと思われます。

一方で、「データの活用」では、これまでの学習が定着しきれていないことが結果に表れており、特に、データの比較・分析をする記述の問題に弱さが見られました。

数学科の授業で取り組むこと

- ・基礎的な知識に関する問題については、引き続き指導を継続していきます。
- ・応用的な問題（知識の活用や、考えを説明させる等）に触れる機会をより多く設け、学んだことをどのように活かせるのか、気づかせるようにしていきます。

（３）英語の結果について

日常的な話題について聞き取る問題や、身近な話題やテーマについて「書く」問題では、比較的良好な結果が見られました。一方で、読み取った内容に関して、考えとその理由を書くような問題では、苦手と感じる生徒が多い結果となりました。また、「読む」ことに関して、内容に合うものを選択する問題に弱さが見られました。

英語科の授業で取り組むこと

- ・読み物教材を意識的に取り入れ、英文を読む機会を増やしていきます。
- ・文章構成の基本的なパターンを用いて、英作文に取り組む機会を設けます。
- ・読み手や聞き手を意識した英作文が書けるように練習します。

２ 質問調査の結果より

（１）結果について（本校・京都府・全国の比較：一部抜粋）

	質問項目	本校	京都府	差	全国	差
(8)	自分には、よいところがあると思いますか	88.9	83.3	+5.6	84.0	+4.9
(9)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	97.7	90.3	+7.4	90.9	+6.8
(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	95	+5.0	95.1	+4.9
(13)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	84.4	71.9	+12.5	71.9	+12.5
(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.7	84.5	+2.2	85.4	+1.3
(17)	友達関係に満足していますか	93.3	90.8	+2.5	91.2	+2.1
(20)	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	88.9	71.0	+17.9	67.5	+21.4

*「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合計した数値

以上の結果から、生徒は良好な友人関係を築いており、学校が概ね安心して過ごせる場所になっていると考えられます。そういった環境の中で、自己肯定感が高い生徒が多く、自分の良さを感じられる機会を得ていることが分かります。また、生徒と教員との間に良好な人間関係の構築が図られており、学校において頼れる大人の存在を認識している生徒が多いことが見てとれます。

各学級においても、一定の心理的安全性が確保されており、授業や学級活動の中で、自分の意見を安心して述べることができる生徒が多いです。

一方、以下の項目については、留意点として今後の取組に活かしていくことが求められると考えられる項目となります。

	質問項目	本校	京都府	差	全国	差
(10)	将来の夢や目標を持っていますか	55.5	64.7	-9.2	67.6	-12.1
(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	44.4	58.6	-14.2	61.6	-17.2
(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	40.0	45.2	-5.2	52.5	-12.5

* (10)：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合計した数値

* (23)：「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」を合計した数値

* (25)：「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」を合計した数値

今回の質問紙の結果から、「将来の夢や目標を持っている」生徒が少ないことや、平日及び土日に家庭学習をする時間が「少ない」または「全くしない」生徒の割合が高いことが分かります。本校のキャリア教育の更なる充実を図り、“将来の自分”を意識する機会を持つとともに、今後も継続して家庭学習の習慣化を目指し、様々な場面で具体的な方法の提示や、適切な課題の設定をすることが必要と考えます。

3 今後の取組について

(1) 授業で学習したことについて単元を通して振り返り、できたことを実感できる学習にする。

単元ごとに丁寧な振り返りを行うことで、学んだことを定着させ、これまでに学習したことや他教科で学んだことと関連づけ、できるようになったことが生徒自身で実感できるようにすることで、次の学びへの意欲付けとなるようにしていきます。

(2) 1時間の授業を細切れに考えるのではなく、単元全体を通して身につける力を考えながら授業に臨みます。

授業で学習したことが、1時間1時間の知識としてだけ覚えるのではなく、日常の事物・現象につながるように関連付けながら、単元を構成することにより、生徒が学習したことにより自分自身にとって、どんなことがわかり、どんなことができるようになったかを実感することで、学習に対する主体性を育みます。

(3) スマートフォンやゲーム、SNS 等との付き合い方を考え、家庭でも計画的に学習できる習慣を身につける。

手帳やAIドリルすら、自主学習ブースの効果的な活用を促しつつ、具体的な活用方法等も紹介して、生徒が自主的に学びやすい環境を整えます。また、各教科でも取り組みやすい家庭学習課題を提供するなど、家庭でも生徒が悩まずに学習に向かえるようにしていきます。もしも、わからないことがあれば、気軽に質問できる雰囲気をつくり、各教科の教師が生徒に寄り添いながら支援していきます。

(4) いろいろな学習方法を試すことで、自分に合った学習方法を見つける。

様々な学習方法を獲得することは、各教科によって自分に合った効果的な学習方法を見つけ、「できた」と実感しやすくなり、そのことが学習意欲にもつながります。また、時間の効果的な使い方にもつながることで、計画的な学習にもつながります。そこで、各教科から様々な学習方法を提示し、自分にあった学習方法を見つけやすくするとともに、学習したことが結果につながったと思えるように、個人の結果分析を一緒にしながら助言していきます。